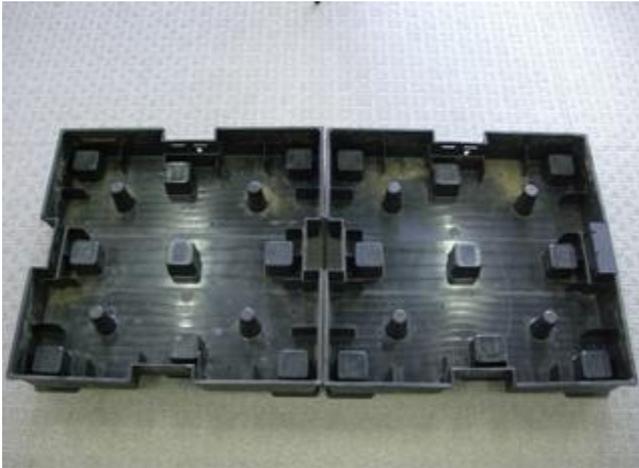


部品構成



ボックス

縦60cm x 横60cm x 深さ10cm

ボックスの4辺にある凹部は

・ベースプレートへのウレタン

注入

・灌水パイプ引き出し

などに使用する

円筒は、スリットがあり水抜き

エアレーション（空気の循環用）

となる

底部には水抜き用の穴



部品

上段左より

ベースプレート

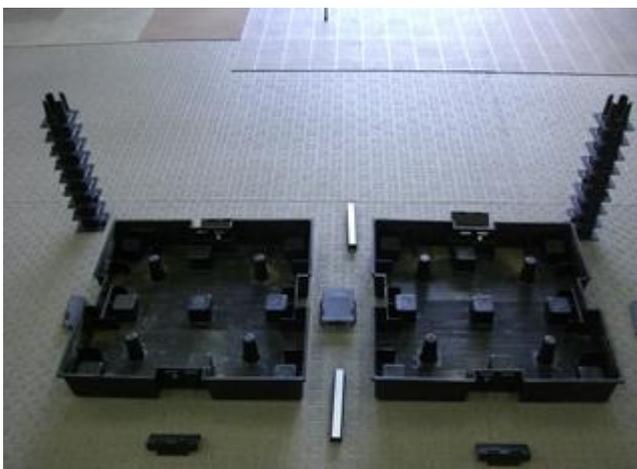
ロックプレート

エッジカバー

下段左より

ベースプレート

目地（オプション）



ボックスと部品の関係

ボックスとの接合にロックプレート
と目地を使う。

ボックスとボックスを接合しない
辺にはエッジカバーを使い凹部
をカバーする。

土壌が床に落ちないために。

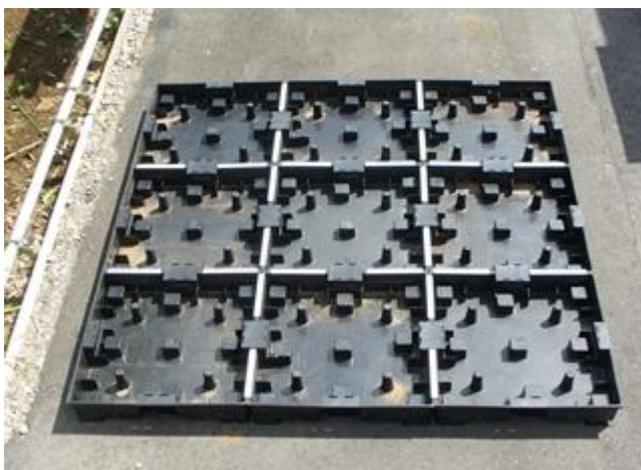
部品構成



ボックスにベースプレート

ボックスの底面に9ヶ所差し込む。
左側はベースプレートをボックスに
セットした状態。
植栽後人が歩行可能。

ベースプレートで床面から2cmの
ボックスが持ち上がり空気層が
できる。この空気層で根が躯体へ
伸びていけないため、紡根シート
が不要。



ボックスの配置例

3列3段
ボックスでは曲線は表現できない
ので、アールは手作りとなる。



廻し縁の設置

廻し縁（商品名エコマウッド）を
設置。
ボックスの端部の目隠しと
景観のため必須。色は黒と焦げ茶。

廻し縁とベース。



ボックスを配置



廻し縁を取付け

この後、軽量土壌の敷き込み。

灌水装置設置。

植栽を行う。

灌水装置 (屋上緑化では必須です)



灌水装置機材 (例)

上段左より

タイマー用カバー

タイマー本体

雨センサー (降雨中の灌水停止)

中段左より

バルブ、電磁弁、給水パイプ、
スプリンクラー。

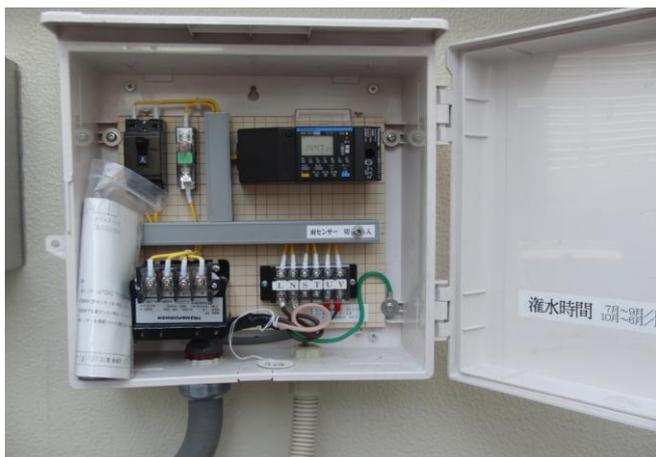
下段左より

ジョイントパイプ、
マイクロチューブ (点滴チューブ)、
60cmごとに点滴穴がある。



灌水装置主要部品の組立

水は左から右へ給水される。

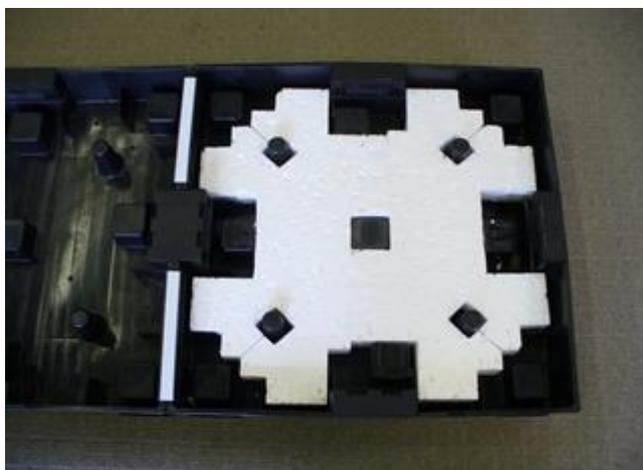


年間タイマー

軽量化（土壌の軽量化だけでなくボックス全体の軽量化）



発泡スチロールの事例
任意の厚さの発泡スチロール
ボックスを敷き込む。



発泡スチロールをファーム
ボックスを敷き込み、植栽土を
敷き込む。

軽量化の概算

ファームボックスの容量 25L（ファームボックスすりきり）
30L（植栽土を盛り上げてボックスの上端を目隠し）

比重 普通土 2.0
植栽土 1.2
防草砂 0.6
貝化石 1.6
発泡スチロール 0.03~0.2

ボックスの満水時重量 $25\text{Kg} \times 2.78 = 69.5\text{Kg}/\text{m}^3$

軽量化例

植栽土 15L 発泡スチロール 10L の場合は $(15 \times 1.2 + 10 \times 0.2) \times 2.78 = 55.6\text{Kg}$

ボックスを使った植栽事例



材料

- 左より
- クラピアポット苗
- 鹿沼土（表土）
- 園芸用土
- 防草資材（防草砂、貝化石など）



園芸用土を敷き込み



鹿沼土を敷き込み



防草材の敷き込み

厚さ2cm～5cmの防草砂などを敷き込む。



植え込み



完成

充分散水する。

植栽後10日間散水が必要。

地植えの場合も植栽後の灌水は必須。

ファームボックス使用事例



横浜市老人介護施設屋上
廻し縁を高くして土厚を厚くし
低木や中木を植栽。



目黒区A医院
東京都クールルーフの助成金
対象となった。



S邸

経年変化 屋上防水の改修時期にボックスや根の状況を確認した。



改修前



ボックスの移動



根が出ていない





撤去後、清掃完了



防水工事後、復旧
